

調べ案内

作成者:戸田市立図書館/作成日:2016年11月19日

しぶかわし 渋川氏について調べるには



〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

わらびじょう 蕨城は南北朝時代にしぶかわよしゆき渋川義行が築いた平城で、大永6年(1526)に落城しました*。蕨城を治めていたとされる渋川氏について調べるときは、以下の資料が参考になります。

*『新修蕨市史』通史編 p.191によると、大永4年から6年にかけて、扇谷上杉氏との間で蕨城をめぐる戦闘が行われ、何回か落城を繰り返していたと考えられるとあります。

「渋川氏」について調べるためのキーワード

わらびじょう 蕨城、南北朝時代、室町時代、しぶかわ 渋川氏、あしかが 足利氏、せいわけんじ 清和源氏

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す。

- 図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「渋川氏」に関する資料の多くは、次の分類記号に該当します。本を探すときの目安にしてください。

「蕨城」に関する主な分類記号※これがすべてではありません。

031	百科事典	081	日本語全集	210.08	日本史辞典	213.4	埼玉県の歴史
288.2	系図	291.0	地名辞典				

渋川氏について調べる。

- 渋川氏について調べるときは、参考資料架及び郷土資料架の資料が参考になります。

【百科事典】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉大百科事典』 5巻	埼玉新聞社	1981	T081	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.272 「わらびじょうあと蕨城跡」</p> <p>あしかが 足利一門である義行が居住していたと考えられていること、義行の孫義鏡が室町幕府の命により古河公方に対陣したこと等が書かれています。</p>			

【日本史辞典】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『国史大辞典』 第7巻	吉川弘文館	1986	R210.0	本館2階・参考資料室
	<p>p.64 「しぶかわよしかね渋川義鏡」</p> <p>長祿元年（1457）義鏡は関東探題として武蔵国司曾祖父義行以来の知行地、足立郡蕨城に向かったこと、大永6年（1526）義鏡の子義堯が扇谷上杉朝興の蕨城攻撃で敗れたこと、その子義基が永祿10年（1567）上総国府台の戦いで戦死したことが書かれています。</p> <p>*『寛政重修諸家譜』は「よしたか」、『角川日本地名大辞典』は「よしあき」とあります。 **『角川日本地名大辞典』では下総です。</p>			

【埼玉県の歴史】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉史談』 第53巻 第4号(通巻288号)	埼玉郷土文化会	2007	T213.4	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.8~15 沼口信一「蕨城と渋川氏」</p> <p>蕨城の戸田元蕨説及び蕨御殿町説に触れ、戸田の御所の主について論じています。</p>			
『新修蕨市史』 通史編	蕨市	1995	T213.4	本館2階・市町村郷土
	<p>p.157~169 「渋川氏と蕨御宿所」</p> <p>嫡子の義鏡が蕨を伝領した可能性が高いこと、足立郡が足利氏の所領であったこと、渋川氏の遺臣に板倉頼資、塚越、岡田、倉田、鬼、庄野がいたこと等が分かります。</p>			
『蕨市の歴史』 1巻	吉川弘文館	1967	T213.4	本館2階・市町村郷土
	<p>p.187~197 「堀越・古河両公方の対立と渋川氏」</p> <p>長祿元年（1457）6月、将軍義政が渋川義行の孫義鏡を関東探題に任命し、武蔵へ派遣して蕨城を拠点とさせたことが分かります。</p>			
『本庄市史』 通史編 1	本庄市	1986	T213.4	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.865 「(3) 渋川氏の下向と堀越公方の迎立」</p> <p>渋川義鏡は関東探題として蕨城を拠点としたこと及び渋川氏が足利一族で九州探題であったことが分かります。</p>			

【地誌】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『角川日本地名大辞典』11 埼玉県	角川書店	1980	R291.0	本館2階・参考資料室
	<p>p.907 「[中世] 蕨」 <small>あしかが</small> <small>しぶかわよしゆき</small> <small>よしかね</small> 空町時代、足利一族<small>あしかが</small> <small>しぶかわよしゆき</small> 義行が蕨城を築いたこと、義行の孫<small>よしかね</small> 義鏡が関東探題として武蔵国へ向かい蕨城を拠点としたこと、戦国時代、蕨城は小田原北条氏の支配下にあり、大永6年（1526）6月に落城したこと等が分かります。</p>			
『増補大日本地名辞書』第6巻 坂東	富山房	1980	R291.0	本館2階・参考資料室
	<p>p.524 「蕨」 <small>しぶかわよしゆき</small> 南北朝時代、<small>しぶかわよしゆき</small> 渋川義行が居住し天正の頃まで一族が蕨を治めたこと、義行が足立郡蕨を取り立て居城とし、代々知行したこと、長禄元年（1457）6月義行の孫<small>よしかね</small> 義鏡が大将として武蔵国に向かったこと等が分かります。</p>			
『日本歴史地名大系』11(埼玉県の地名)	平凡社	1993	R291.0	本館2階・参考資料室
	<p>p.202 「<small>わらびじょう</small> 蕨城跡」 <small>しぶかわよしゆき</small> <small>よしかね</small> 渋川義行が武蔵国司として蕨を居城としたことにより、長禄元年（1457）6月<small>よしかね</small> 義鏡が空町幕府の命令で派遣されたこと等が分かります。</p>			
『埼玉県謎解き散歩』2	中経出版	2013	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.52～54 「足利氏の名門渋川氏の東下と蕨城」 <small>しぶかわ</small> <small>せいわけんじあしかが</small> <small>よしゆき</small> <small>よしかね</small> 渋川氏は清和源氏足利一族で、義行の曾孫<small>よしかね</small> 義鏡が父祖伝来の所領を継承したこと、渋川氏と蕨宿の関係が観応3年（1352）6月「<small>なおより</small> 渋川直頼讓状写」に遡ること、所領が義行に伝領され「蕨築城説」を生んだことが分かります。</p>			
『埼玉の古城址』	有峰書店新社	1983	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.40～43 「蕨の古城」 <small>よしゆき</small> 渋川氏が足利一門であること、義行が初めて蕨に居館を築き、將軍<small>よし</small> 義政が関東支配のため義行の孫<small>よしかね</small> 義鏡を関東探題に任じ、蕨城に入れたことが分かります。</p>			
『新編武蔵風土記稿』第7巻(『大日本地誌大系』13)	雄山閣	1996	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.241 「蕨宿」、p.243 「城蹟」 <small>しぶかわよしゆき</small> 江戸時代の地誌です。南北朝時代から天正期まで<small>しぶかわよしゆき</small> 渋川義行の子孫が蕨を領地としていたこと等が分かります。</p>			
『武蔵国郡村誌』第1巻	埼玉県立図書館	1953	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.227 「城蹟」 明治時代初期に作られた武蔵国（埼玉県に属する地域）各村の地誌です。「新編武蔵風土記稿」の記載を引用しています。</p>			

『歴史ロマン・埼玉の城址30選』	埼玉新聞社	2005	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	<p>p.36～39 「龍體院伝説」</p> <p>しぶかわよしもと 渋川義基の妻にまつわる伝説、渋川氏遺臣の子孫の風習等について書かれています。</p>			

【系図】※その他の史料については、調べ方案内「蕨城及び渋川氏関連史料を見るには」を参照のこと

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
「渋川系図」(『続群書類従』第5輯上所収)	続群書類従完成会	1979	R081	本館2階・参考資料室
	<p>p.420～423</p> <p>なべしまきいのかみけ これは、鍋島紀伊守家に伝わる九州探題渋川氏の系図の写しです。渋川氏は、せいわてんのう 清和天皇を祖とする足利義顕の子孫です。p.421 に義行の記述があり、官職、先祖、両親、子の名等が分かります。※蕨の記述なし</p>			
『尊卑分脈』第3篇 (『新訂増補国史大系』60上)	吉川弘文館	2001	R210.0	本館2階・参考資料室
	<p>p.259～260 「清和源氏渋川」</p> <p>しぶかわ 渋川氏は、せいわけんじあしかがよしあきら 清和源氏足利義顕の子孫です。p.260 に義行の記述があり、官位、没年(年齢)、先祖、両親の名等が分かります。※蕨の記述なし</p>			
『寛政重修諸家譜』第2	続群書類従完成会	1980	R288.2	本館2階・参考資料室
	<p>p.137～138 「清和源氏義家流足利支流板倉」</p> <p>しぶかわ 渋川氏及び板倉氏の祖は、足利泰氏の子渋川義顕です。蕨城に關係する人物として、よしゆき 義行、よしあき 義鏡*及びよしあき 義堯**を確認できます。系図、名前の読みがな、官位、没年、家紋等を調べられます。※蕨の記述はありません。</p> <p>*『国史大辞典』等では義鏡を「よしかね」と読んでいます。 **『角川日本地名大辞典』では義堯を「よしあき」と読んでいます。</p>			

※文中の読みがなは、各資料の読みに従ったため、読み方が異なることがあります。

※文中に読みのない人名は、『寛政重修諸家譜』『国史大辞典』『歴史人名よみかた辞典』等の読み方を参考にしました。

※読みが分からないものは読みがなを付けていません。

★蕨城に関する「調べ方案内」は、他にもあります。

「蕨城の概要を調べるには」(514KB)

「蕨城及び渋川氏関連史料を見るには」(653KB)

「蕨城の所在地をめぐる説を調べるには」(618KB)

※リンク先は、PDF ファイルです。